20183

場所打ち杭用杭頭半固定工法の開発 その9　品質管理

正会員 ○西村憲義（三井住友建設）　同　小林　仁（松井建設）
同　武内義夫（西松建設）　同　吉川清峰（飛島建設）
同　丹羽貴子（鹿島建設）　同　加藤政利（五洋建設）

【はじめに】
場所打ち杭用杭頭半固定接合法の実施に向け、施工時の品質管理について実大施工実験の結果を報告する。

【施工時の品質管理】
シース方式による引張定着筋の施工時の場合

		測定対象	測定時期	許容差(mm) [許容値(mm)]	許容値を超えた場合の対策
シース または 引張定着筋	シース設置位置 または 引張定着筋設置位置	X・Y方向 ２点間距離	杭鉄筋 組立時	±20	位置修正
	シース天端レベル （シース方式のみ）	X・Y方向 ４点測定	杭鉄筋 組立時	±5 [-25～ -15]	位置修正
杭主筋	天端レベル	全数	杭頭 処理後	±20 [-40～0]	>0　：主筋カット < -40　：監理者協議
PC リング	杭整形後と PCリングの あき寸法	X・Y方向 ４点測定	PCリング 設置時	±20 [10～50]	位置修正
	PCリング正規 天端高さとの レベル差	X・Y方向 各２箇所	PCリング 設置時	±20	監理者協議
	PCリングの左右 天端レベル差	X・Y方向	PCリング 設置時	10 [0～10]	位置修正
引張定着筋	引張定着筋の 定着寸法	全数	モルタル 充填前後	±50	< -50　：監理者協議

種類	測定時期	測定項目	品質管理値
シースグラウト材	フレッシュ時	J_{14}ロート試験	メーカー仕様による [参考値：8±2（sec)]
シースグラウト材 杭頭部モルタル	硬化後	材令28日（4週）強度	36N/mm^{2}以上

【まとめ】
５現場にて実大施工実験を実施し、施工基準に規定する施工精度が得られることを確認した。

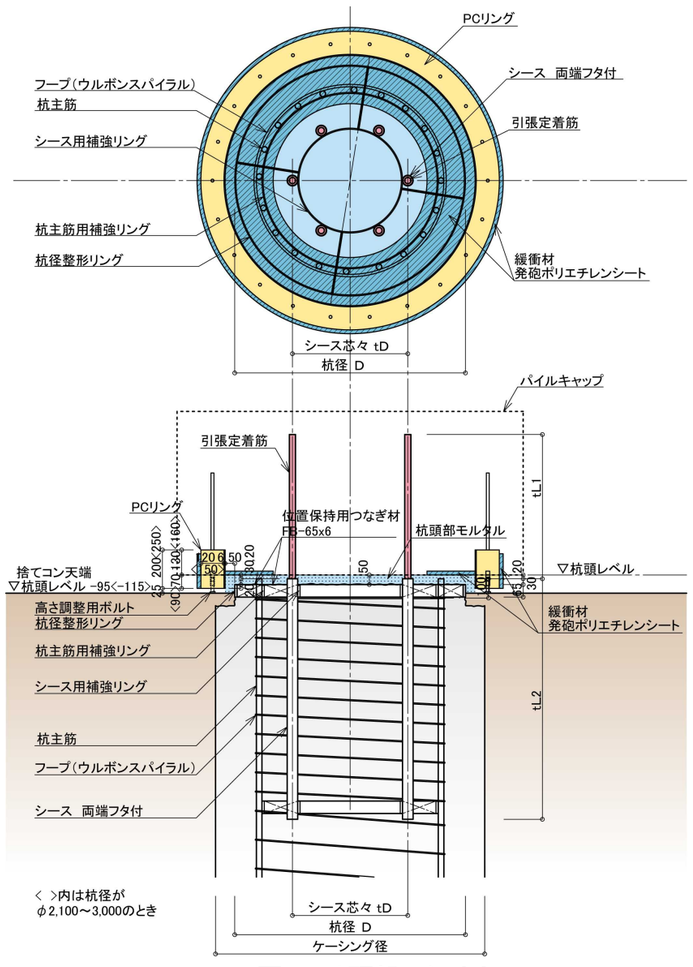

図1　杭頭部の納まり

図２　施工手順と確認項目